

第 1 回 まちづくり市民会議 結果概要

《テーマ》

～ 10 年後の鴨川市を考える～（かもカフェ）

日時：平成 27 年 1 月 24 日（土）
13 時 00 分～15 時 30 分
場所：鴨川市役所 4 階大会議室
出席者数：25 名 傍聴者数：8 名

1 開会・市長あいさつ**【長谷川孝夫市長あいさつ】**

今回の市民会議は、公募をはじめ、幅広い分野、年代層などに配慮した 30 名の皆様にご参加をいただいております、本市では初めての試みとなる。

まちづくりの主役は市民の皆様であり、常に対話を心がけ、同じ目線に立ち、より一層の信頼関係を構築しながら、産・学・民・官が一丸となった協働によるまちづくりを進めていきたいと考えている。

まさに本日の会議は、皆様からのご意見を新たな総合計画や都市計画マスタープランに反映させることにより、市民の皆様との協働によるまちづくりを推進していくことをその本旨としていることから、それぞれのまちづくりへの想いについて、忌憚りの無い、積極的なご意見を頂きたい。

今後、本格的な人口減少・少子高齢化社会の到来により、地方自治体にとってはこれまで以上に多様で複雑化する住民ニーズへの的確な対応や、震災を尊い教訓とした安全で安心して暮らすことのできるまちづくりが求められている。

加えて、東京オリンピック・パラリンピックの開催を 5 年後に控えるなか、先に発足した第二次安倍政権における地域住民の生活等緊急支援のための交付金や震災復興を加速化するための補正予算が早々に編成されるなど、地方における「まち、ひと、しごとの創生に向けた総合戦略」を前倒しで実施するための財政的な支援措置が講じられたところである。

このような状況のなか、現行の鴨川市総合計画は、平成 27 年度をもって計画期間が終了となることから、引き続き、総合的かつ計画的なまちづくりを推進していくための平成 28 年度以降の新たな総合計画の策定及び都市計画マスタープランの改定に向け、ご参加いただく皆様のお力添えをお願いします。



2 委員長等の選出・委員長あいさつ

委員長に石田三示氏、副委員長に平野義孝氏、古橋博子氏、花山藤太郎氏を選出しました。

【石田三示委員長あいさつ】

普段はNPO法人大山千枚田保存会で活動をしている。市民会議は今回が初めての開催になるとのこと。またと無い機会でもあるので、皆さんの活発なご意見をいただきながら、結果を出す事が出来るよう努めたい。



3 まちづくり市民会議の趣旨、運営方法の説明

配布資料に基づき趣旨の説明を行いました。

【趣旨】まちづくりに関する意見交換及び検討を行い、その結果を新たな総合計画や都市計画マスタープランに反映させることで、もって市民との協働によるまちづくりを推進することを目的とする。

また、市民会議の実施期間、構成、公開、謝礼金及び結果の取扱いについて、参加者への説明を行いました。

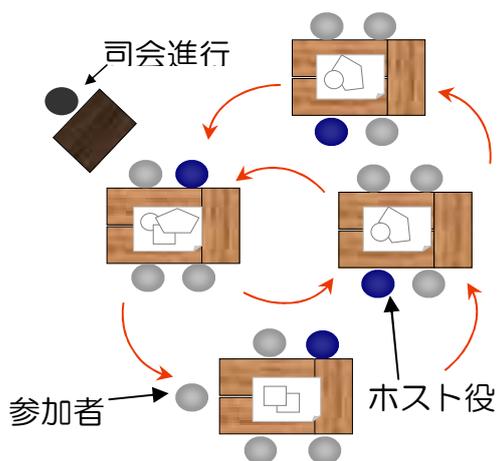
4 ワークショップ（「かもカフェ」）の進め方と説明

ワークショップの進め方としてワールドカフェ方式を採用することとし、これを「かもカフェ」と名付けました。

また、ワークショップ前のアイスブレイクとして、各グループで「他己紹介」を行いました。



■ かもカフェの流れ



1 グループ5～6人

1ラウンド 15～20分で、アイデア等を模造紙に自由に書く。

1ラウンド終了ごとに、ホストを残し別のテーブルへ移動する。

ホストがテーブルで話された内容を新メンバーに説明し、さらに対話を重ねる。

4ラウンド目は、最初のテーブルに戻り、キーワードを導き出す。

なお、今回のかもカフェにおける各ラウンドのテーマは以下のとおりでした。

- 1ラウンド（20分）：10年後の鴨川市はこんなまちにしたい①
- 2ラウンド（15分）：10年後の鴨川市はこんなまちにしたい②
- 3ラウンド（15分）：理想の鴨川市を実現するために市民がすべきこと
- 4ラウンド（15分）：元のテーブルに戻って、キーワードを3つ考える



6 全体確認（発表）・まとめ・閉会

かもカフェの結果により、各グループから発表された「10年後の鴨川市に向けてのキーワード」は以下のとおりでした。

【グループ1】

キーワード	説明
合併（安房地域全体で）	数年前にあった安房郡の合併を再度見直し、地域を統一できたら良いのではないか。
人口増	全てのラウンドにおいてネガティブな意見が出たが、その原因は人がいないことに起因するとの共通の認識があった。10年後に人口が増えている鴨川をイメージしようとする、若者が農漁業等に取り組める環境づくりが大事なのではないか。
観光	人口が少ない本市にとって観光客は大事にしなければならないとの思いから、より良い観光地を創出していくべきであると考え。まずは、市民が行動することが大事ではないか。

【グループ2】

キーワード	説明
国際化	2020年の東京オリンピック開催が見込まれる中で、多くの訪日外国人を呼び込んでほしい。
地産地消（6次化）	本市は農業・漁業が盛んであることから、第1次産業・第2次産業・第3次産業の連携により、市域で採れたものを市域で消費しようとするのが重要なのではないか。
子育てがしやすい	子育てがしやすい環境であれば、若者の定住が促進され、少子化の改善につながると思う。

【グループ3】

キーワード	説明
地産地消（1次～6次）	10年後の鴨川市では、市域で採れた野菜や魚等は出来る限り地元で消費されていてほしい。
感幸（観光）	本市を来訪された皆さんにお金を使ってもらおうというよりも、いかに満足していただけるかが重要である。「観光」ではなく「感幸」とした理由は、美味しいものを食べていただく、素晴らしいものを見ていただくことに限らず、市民全体でおもてなしをすることが必要であり、それにより幸せを感じていただきたいという意味が含まれている。
ヤングタウン	シルバータウンなどはマイナスのイメージが先行するため、都会の若者にとって本市は若いまちだと感じていただけるような、「ヤングのまち」を作ろうという意味である。

【グループ4】

キーワード	説明
住みたい街づくり	住んでいる市民の方々が満足するまち、住んでいない方々が本市に住みたいと思うまちづくりとして、満足度の高いまちづくりを目指していこうという意味である。
元気	元気と活気と生き生きとしたまちというイメージを吹き込んでいくことが重要である。若さ溢れる元気なまちを目指そうという意味である。
医と観光で職場作り	資源の集中と選択ということで、資源を最大限に有効活用し、今あるもの（市の強みである医療と観光）に磨きをかけていこうという意味である。

【グループ5】

キーワード	説明
人口を増やす	外を歩いていると食べ物をおすそ分けしてもらえるとといった、本市の良さを市外にPRすることが重要である。そのためには、市民が「鴨川の魅力」を知ることが大切である。
鴨川ブランド	仕事を創出するために、今ある鴨川の資源をうまく活かしていくことが求められる。例としては市の産品をブランド化するなどが挙げられる。
健康長寿	健康長寿を目指し、高齢者にも適度に働いてもらい、老後を全うしていただきたいという意味である。高齢者は仕事から離れると途端に衰えてしまうものなので、出来る限り元気に働いていられるような環境づくりが求められる。

【全体のまとめ】

- 『観光』、『地産地消』というキーワードが複数のグループから発表されました。
- また、『人口増』に関するキーワードも複数のグループから発表され、その取り組みの方向性として『子育てのしやすいまち』、『ヤングタウン』、『健康長寿』、『住みたいまち』といったキーワードが発表されました。

